

教科書：江戸から東京へ（東京都教育委員会）

副教材：江戸から東京へサブノート（東京都教育委員会）、江戸から東京へ歴史地図帳（東京都教育委員会）
歴史資料館・日本史のライブラリー（とうほう）

学習目標

本校の地理歴史科の目標

我が国および世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

第4学年の目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解させ、文化の多様性・複合性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学習方法

- (1) 授業で扱う歴史的事象を、大きな歴史の中で確認する。
- (2) その歴史的事象の説明を大まかに理解する。
- (3) その歴史的事象の背景や原因、理由や経過、結果や意義についての疑問をもつ。
- (4) 上記の疑問についての検証を多角的におこない、解決を図る。
- (5) この時間内に学習した事項を、簡潔におさらいする。

評価の観点・方法

以下の観点に基づき、生徒一人一人の活動をしっかりと単元ごとに評価を行います。

観点① 歴史的事象の 関心・意欲・態度	歴史の事象や課題について関心をもち、意欲的に探究しようとしている。				
観点② 歴史的な思考 ・判断・表現	歴史の事象や課題について、その背景や原因、問題点を論理的に考える。				
観点③ 資料活用 の技能	資料や文献を多面的な角度から分析し、分析結果をまとめ、発表する。				
観点④ 歴史的 事象についての 知識・理解	歴史の事象や課題について、その特色や意義を知り、相互の関連を理解し、その知識を体系化し、活用する。				
評価の方法\観点		①	②	③	④
学習態度の観察		○	○	○	
課題などへの取り組みと提出物		◎		◎	○
授業内テスト		○			
定期考査			◎		◎

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	○江戸時代の社会について、社会の仕組みや外交政策、経済、庶民文化等の視点から概観し、三大改革に至る過程と改革の必要性について理解する。 ○欧米列強の接近によってもたらされた幕藩体制の動揺、さらにはその帰結として幕府が倒れるに至る過程を理解する。	1. 幕藩体制の成立 2. 江戸幕府の外交政策 3. 江戸の経済と交通流通 4. 幕府の安定 5. 幕政の改革の時代 6. 江戸の文化 7. 列強の接近 8. 開国 9. 江戸幕府の滅亡 ／教科書・副教材とプリント	
2 学 期	○明治維新後に行われた富国強兵と殖産興業策、立憲体制の成立、明治文化や近代産業の発展に着目し、近代国家の形成過程を理解する。 ○条約改正交渉や日清・日露戦争前後の対外関係に着目し、我が国の国際的位置づけの変化について理解する。 ○大正期における民主主義と政党政治の発展、第一次世界大戦前後の国際情勢と外交の展開、昭和初期の恐慌の連続に着目し、軍部の台頭と政党政治の終焉の過程について理解する。	1. 明治維新と富国強兵 2. 殖産興業と文明開化 3. 初期の国際問題 4. 自由民権運動と激化事件 5. 大日本帝国憲法と初期議會 6. 初期の外交政策と条約改正 7. 日清戦争・日露戦争と国際関係 8. 近代産業の発展 9. 明治文化 10. 第一次護憲運動と政党内閣の成立 11. 第一次世界大戦と市民文化 12. 関東大震災と復興 13. 政党政治の展開と世界恐慌 14. 軍部の台頭とテロ事件の多発 ／教科書・副教材とプリント	
3 学 期	○満州事変から太平洋戦争へ至る過程を考察し、理解する。 ○GHQによる占領・民主化政策の展開に着目し、終戦から独立までの過程を理解する。 ○第二次世界大戦後の国際情勢の変化に着目し、冷戦が我が国に与えた影響を理解する。 ○55年体制の成立や高度経済成長以降の日本社会に着目し、国際社会における日本や東京の役割の重要性を理解する。	1. 日中戦争と新体制運動 2. 太平洋戦争 3. 新生日本のスタート 4. 憲法の制定と東京都の出發 5. 講和と安全条約 6. 独立後の政治と平和の動き 7. 保守政権の安定と外交 8. 高度経済成長とそのひずみ 9. 現代の生活文化 10. バブル景気と社会の動揺 11. 国際都市 東京 ／教科書・副教材とプリント	

学習のアドバイス

○歴史的事象と現代の世界を関連させて考えること。

→ 世界の歴史を学ぶことは、我々が生きているこの現代の社会を理解することに直結する。

→ 皆さんがこれから、現代の世界でどう生きていくかということを考えていく大きなヒントになる。

○授業で扱った歴史的事象に関連する書籍を読んだり、映画を観たり、博物館に行くこと。

→ 関連する地域や時代に興味・関心が出てきて、自ら課題を持って学びたくなる。

→ 思わぬ気づきや発見があって、学習意欲が高まるとともに、歴史的理解が一層深まる。

○新聞やインターネットで時事問題にできるだけ触れ、世の中の出来事に興味・関心をもつこと。

→ 時事問題の様々な構成要素に、授業で扱ったことや関連事項が意外に多いことに気付く。

→ 現代からの視点、過去からの視点、未来からの視点、など多角的なものの見方・考え方が身に付く。